

日本語感さん

さっき名探偵コナンのアニメを観ていた。そこで出会った言葉「うぬ」。うぬっ、久しぶりに耳にした。漢字で書くと「汝」または「己」となる。単純に訳せば？「あなた」になる。

以前何かのバラエティー番組で広辞苑には「わたし」という意味を持つ言い方、すなわち一人称代名詞が百十六も載っているという。もちろん方言を含めると116以上になる。上で述べた二人称代名詞もおそらく116も無いが、そこその数は調べれば出てくるはずだ。

だれもがその全ての言い方やニュアンスを把握しているわけではないが、おそらく日常生活のなかで軽く10通りの言い方ぐらいは思い浮かんだり、どこかで読んだり聞いたり使ったりする。スペイン語には私という言い方が知っている限りひとつしかない。Yo（ジョ）と発音し、日本語で「私」または最低でも116の「わたし」という意味をつかさどっている。日本語でもYo「よ」という「わたし」という意味を持つ言葉がある。漢字で書くと「余」だ。よく言うのが「余の辞書には。。」英語でも「I」（アイ）が116プラスの「わたし」をまとめ上げている。

「あなた」は英語ではYou、Thou ぐらいだろうか、スペイン語では Tú、Usted、Voz ぐらいで‘がんばっても’2～3通りが落ちた。他の言語も良く似た感じで、せいぜい多くて5～6通りと予想する。5～6通り存在していても実際日常で使ったり触れたりするものはそれ以下であろう。

そこで考えるのが、例えば「わたし」という言葉を10ヶ国語で知っているとする。しかしそれは「わたし」という言い方を重複して10知っているだけのことである。「わたし」という言葉を10違う言語で言っているだけのことであって、それ以上の意味は無いと僕は判断する。

なので、日本語で10通りの「わたし」という言い方を知っている方がよっぽどスゴイ。というか表現力や感性などの面から見ると、「わたし、わし、俺、僕、あたし、おいら、我、おいどん、我輩、拙者」などそれぞれ違うニュアンス（それぞれの細かい微妙な意味や雰囲気？）を持つ10の「わたし」という言葉を知り、理解している方がよほどの価値がある。

この細かさ（いや‘賢さ’と言っても良いかも知れない。）が日本人、日本文化な

どを創り上げている源のひとつとして捉えることができる。漫画やアニメなどが発展したのも、人称代名詞などが豊富にあり、「キャラ」がそれによって見えるところにあり、誰がしゃべっているのかがすぐに分かるというところが大きく影響しているのかもしれない。

最後に。。。日本語の人称代名詞を統一、外国語のレベルに合わせるという‘動き’？がある？ようだが、そんな「バカなまね」「アホなこと」だけはやめてほしい。そういった‘動き’があるということだけでも日本人の日本語の衰えがあることを示唆しているのであらう。それは悲しむべきことである。

「愛国心、日本人だから、日本語が他の言語より... から」などの考えから言うのではなく、この日本語と言う不思議な言語、素晴らしい遺産、日本の文化を形作る源、その価値を失わないようにしてほしい。それは特に日本人という日本語を話す方々の意識によって守られ、これまで以上に向上し続けることも可能である。

西田賢司

2009年5月18日、午前2時34分

サンホセ、コスタリカ